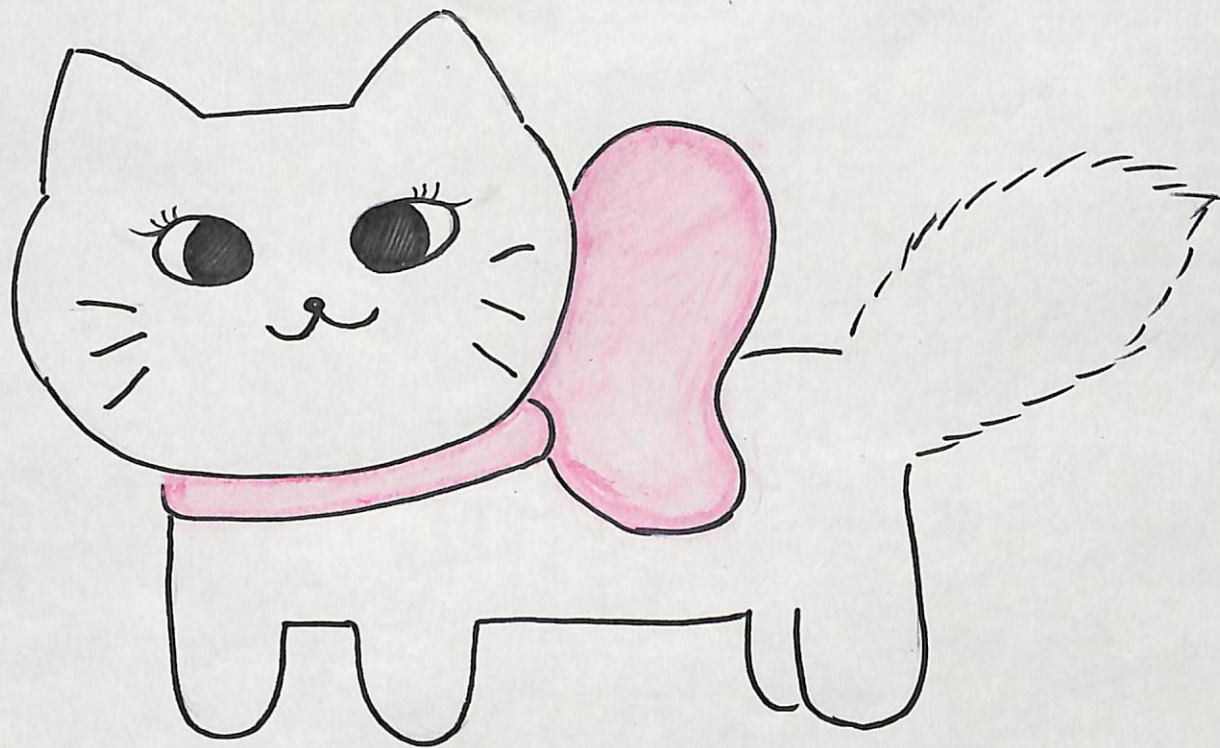
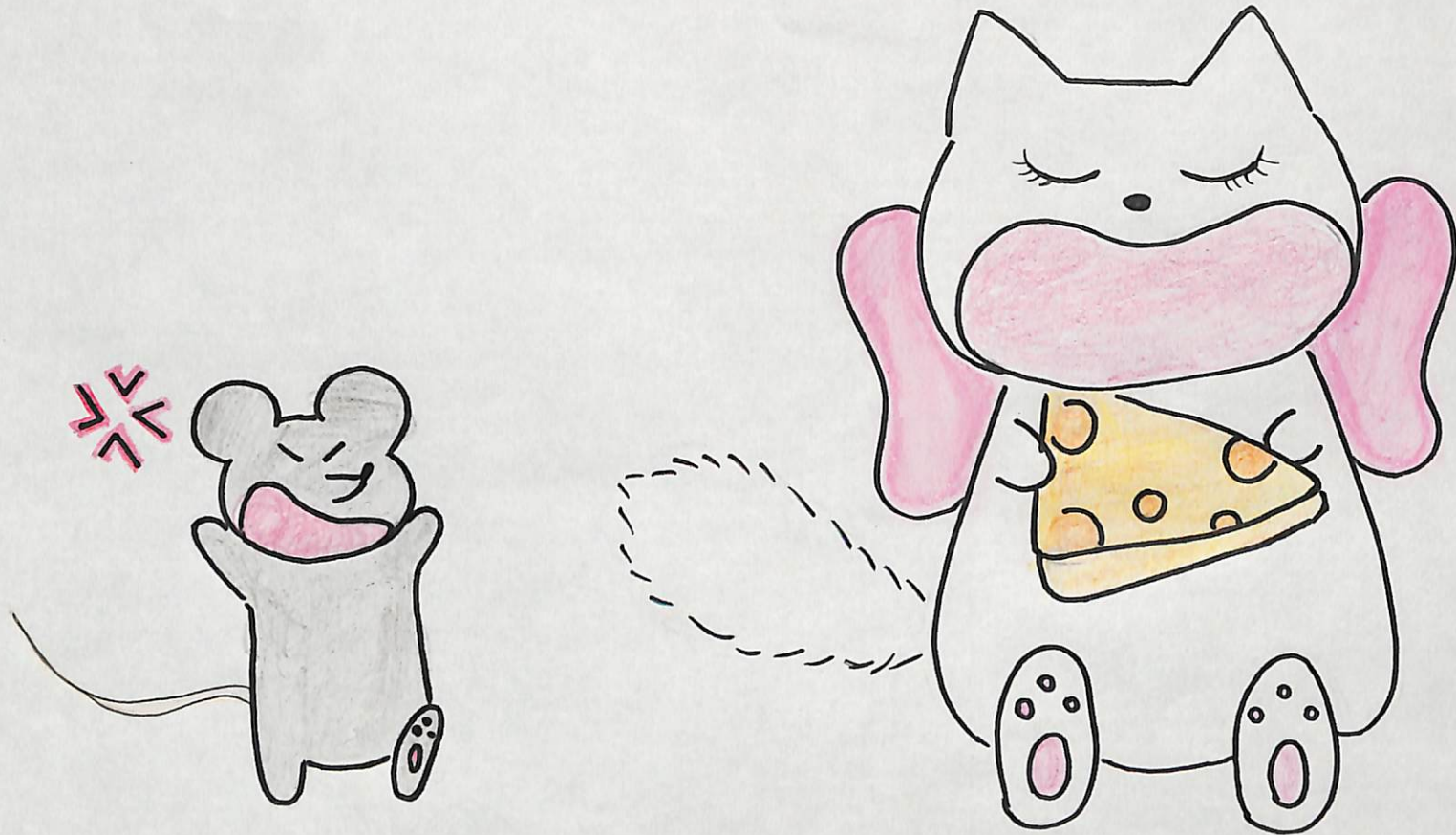


「いたずら子猫のミーちゃん」  
132H023



大きなリボンをつけた フサフサ しっぽが自慢の <sup>じまん</sup>いたずら子猫 <sup>こねこ</sup>ミーちゃん。

「<sup>なに</sup>何か面白いことは <sup>おもひ</sup>ないかしら？」



ある  
歩いていると、ねずみさんが <sup>おい</sup>美味しそうなチーズを <sup>た</sup>食べていたので

「それ わたしにちょうだい」と うばってしまいました。ねずみさんはカニカン！

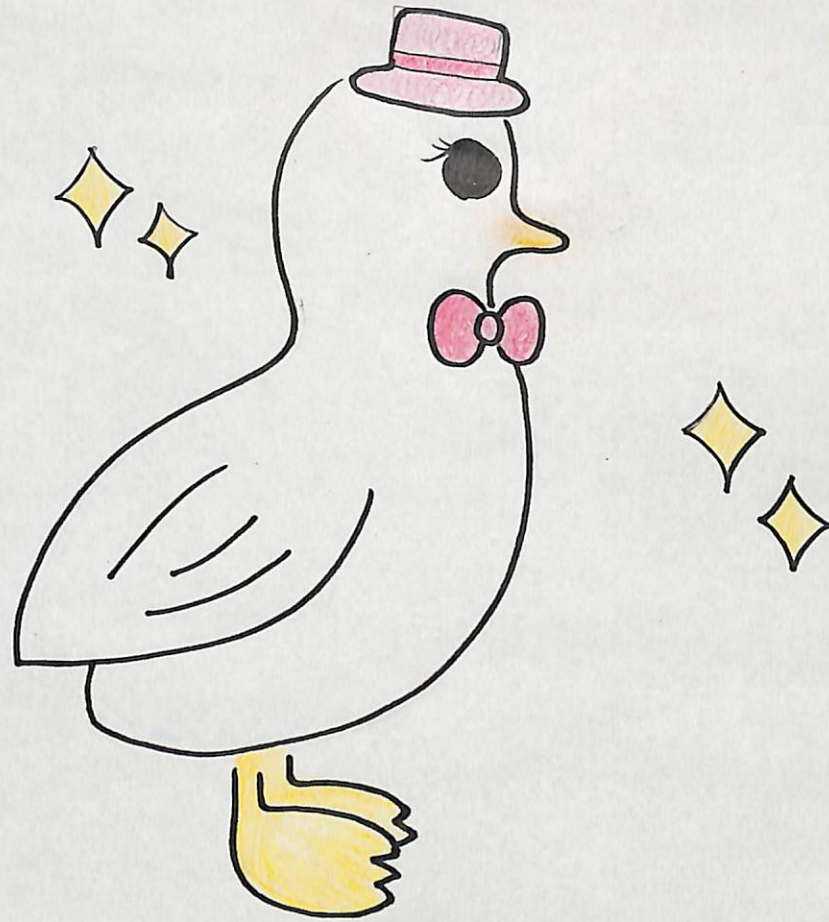
でもミーちゃんは <sup>し</sup>知らんぷり。



また <sup>ある</sup>歩いていると <sup>こいぬ</sup>子犬が <sup>ひるね</sup>お昼寝をしていたので <sup>はな</sup>鼻をひっかいて

「そこは <sup>わたし</sup>私の <sup>とお</sup>通 <sup>みち</sup>り道よ！」

子犬は <sup>な</sup>泣きだしましたが、ミーちゃん <sup>し</sup>は知らんぷり。



アヒルの<sup>おく</sup>奥さんは おしゃれ<sup>ず</sup>好き。今日も お<sup>き</sup>気<sup>い</sup>に入りの<sup>ぼうし</sup>帽子をかぶって<sup>さんぽ</sup>散歩をしていました。

ミーちゃんは「変<sup>へん</sup>な<sup>ぼうし</sup>帽子をかぶってアヒルの<sup>おく</sup>奥さん変<sup>へん</sup>なのー!」とからがいました。

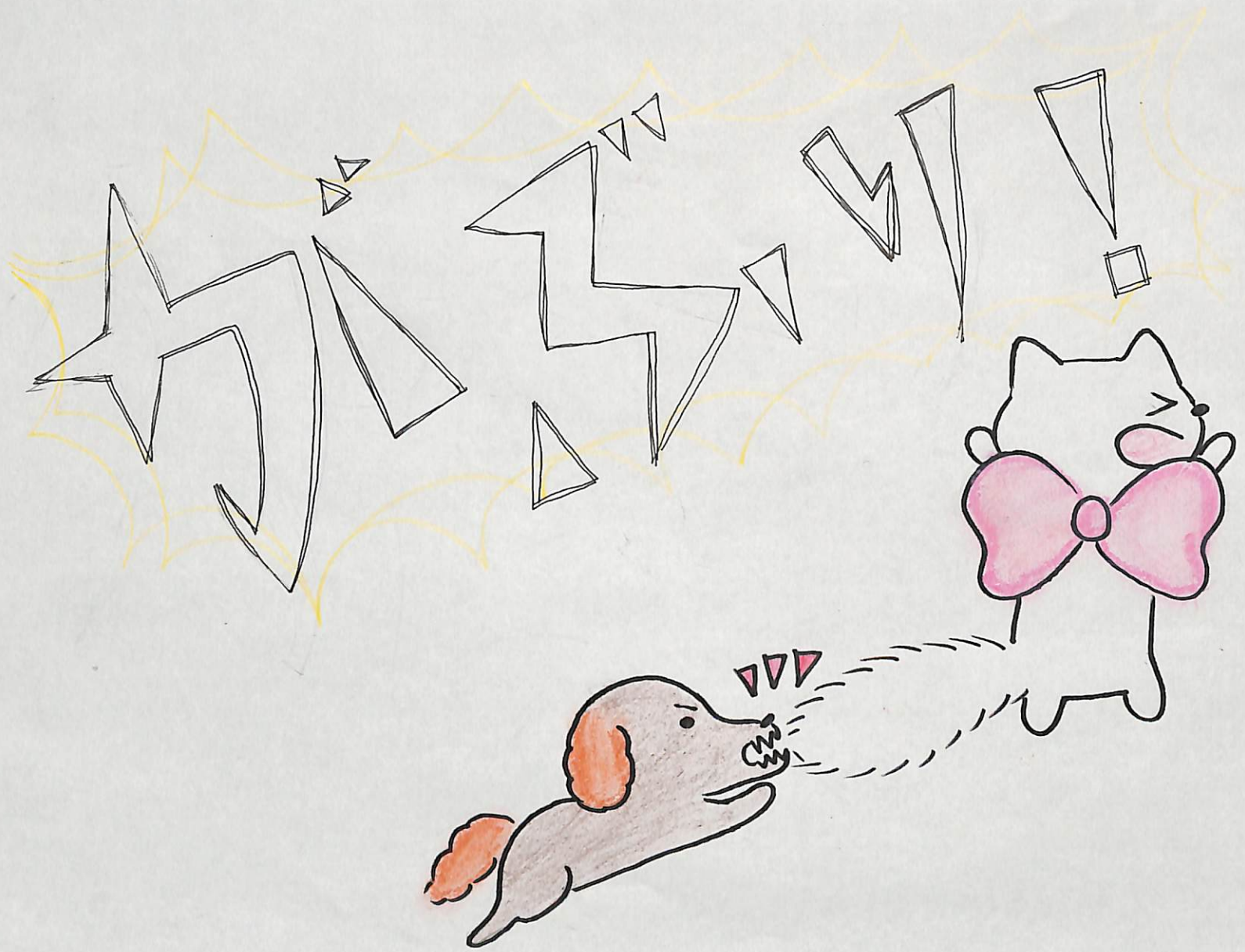
アヒルの<sup>おく</sup>奥さんは真<sup>ま</sup>赤<sup>か</sup>になって怒<sup>おこ</sup>っていましたがミーちゃんは矢<sup>し</sup>口<sup>くち</sup>ら<sup>ん</sup>ぶ<sup>り</sup>。



そろそろ おなかが空いたミーちゃんが お家に帰ると お皿がありません！

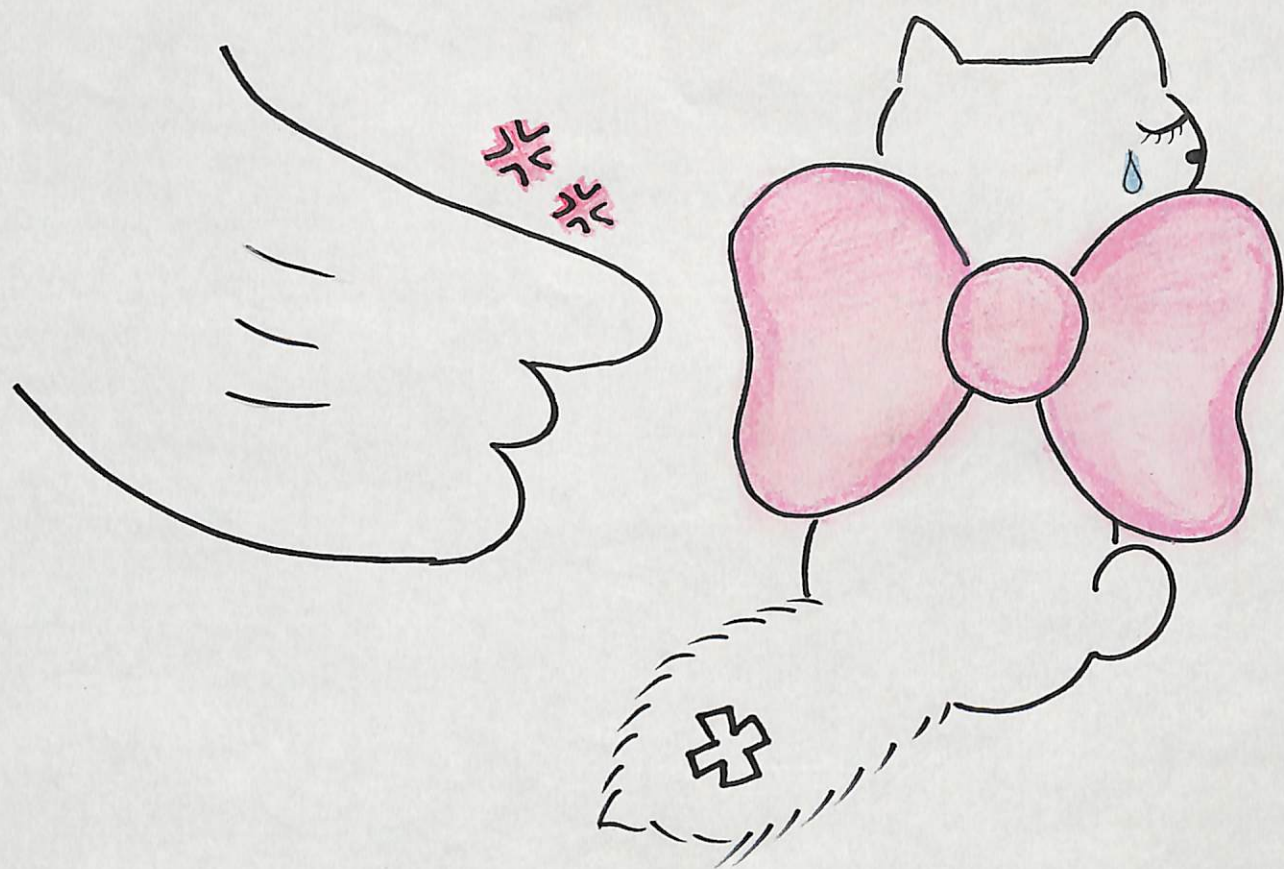
ねずみさんがミーちゃんのごはんを持ってしまったのです！

ミーちゃんが怒っていると後ろから...



と、ミーちゃんの自慢じまんのフサフサレッぽこいぬを多犬ほしががんで走って行ってしまいました。

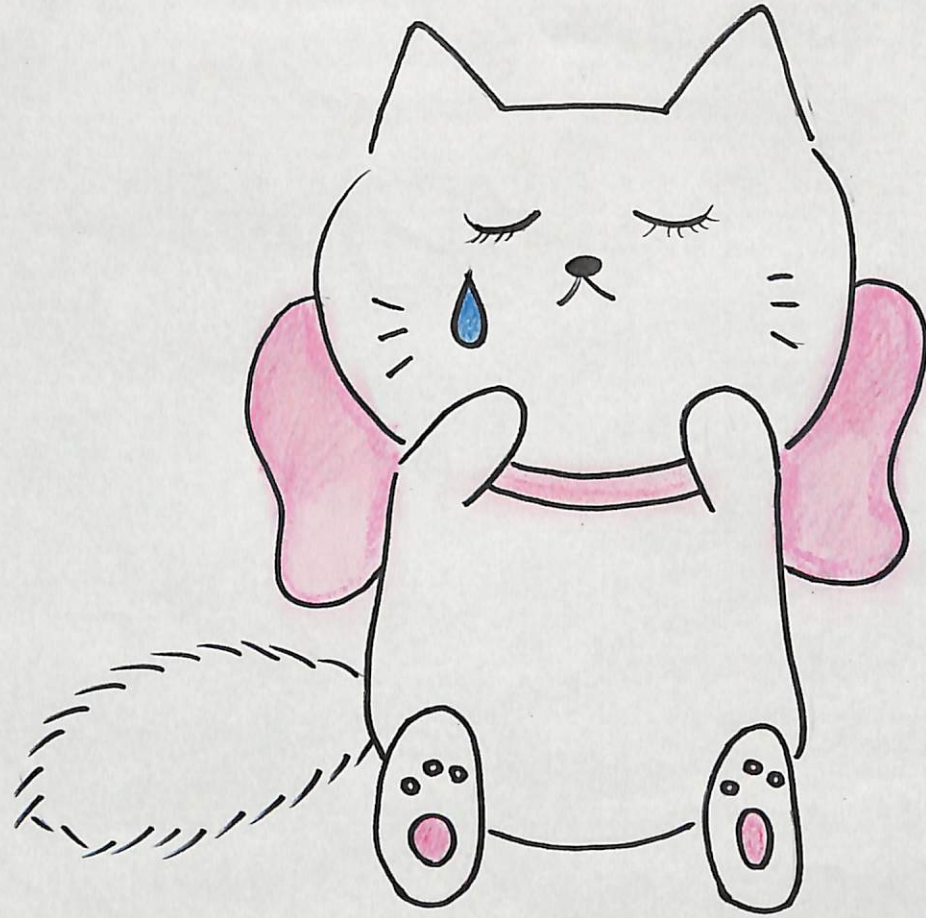
ミーちゃんいたは痛くて泣なきだしてしまいました。



するとそこへアヒルの奥<sup>おく</sup>さんがやってきて、

「ミーちゃんのその大き<sup>おお</sup>なリボンとっても変<sup>へん</sup>ね!」と言って去<sup>い</sup>って去<sup>こ</sup>っていきました。

ミーちゃんはとても悲<sup>かな</sup>しくなりました。



ミーちゃんは自分<sup>じぶん</sup>がしたいたずら<sup>いたずら</sup>を反省<sup>はんせい</sup>して みんなに「ごめん<sup>ごめん</sup>なさい」を  
言<sup>い</sup>いに行<sup>い</sup>きました。  
あした 明日<sup>あした</sup>からは みんなと仲良<sup>なごよ</sup>く遊<sup>あそ</sup>ぼうね ミーちゃん。